



## 隠れ古社寺 ひとり旅②

～興成・飯道・遠敷神社～

歴史文化クラブ

川井秀夫

八月某日。二月堂周辺を歩いてみた。晴天暑い(この日、奈良地方は36.4℃、今夏の最高気温を記録)。修学旅行生も姿なく、欧米の観光客がチラホラ、二月堂・四月堂・開山堂など大伽藍も息をひそめて佇む。今日は東大寺という巨大寺院を囲む鎮守社を訪ねてみた。

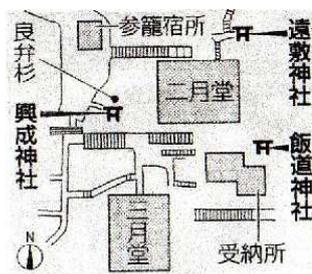
先ず興成神社。二月堂舞台下の斜面。良弁杉の横に春日造の社殿が鎮座する。小社と言うより祠と言った方が適切か。

神名帳には興成大菩薩と記され、コージョーダイボサと読む。とくに巻頭部分の興文・興成・興松・興明・興児・興叙・興進・興高の「興」のつく八社は八大菩薩と呼ばれ、現在六社が廃絶し二社しか現存しない。この社は空海勧請の伝承がある。

二月堂入り口を更に石段を上ると飯道神社がある。神名帳の二段目に記されイイミチノダイメヨウジンと読まれる。修二会を創始した実忠和尚の勧請と伝えられる。甲賀郡信楽町の飯道山に同名の神社がある。信楽は聖武天皇が遷都し、大仏造立を発願した場所。最後は遷都した奈良で鑄造されるのだが、二つの社が、どのように関わったのか興味がある。

二月堂の裏を通り抜けると、石段を上った高台に遠敷(おにゅう)神社が鎮座する。小入大明神(オニウノと読む)と神名帳にあり有名な説話がある。

若狭の国の遠敷明神が漁に出ていて二月堂に遅参、それを詫びて地元から清水を奈良へ送った際、白黒二羽の鶴が岩盤を破り飛び立ち、水が湧き出した場所が二月堂下の若狭井と言われている。



本尊の観世音菩薩に供えるため、年に一度その水を汲むのが「お水取り」の秘法で修二会の最も厳粛な行法とされる。

初日と最後に興成・飯道・遠敷三社を練行衆が巡拝し、厳格な作法で「惣神所(ソウシンシヨ)」と言う行事を行う。特に、満行感謝の惣神所は練行衆だけではなく徹夜の参拝者をも神秘的な世界へ誘い込む。



▲二月堂鎮守社のひとつ飯道神社

最後に三社の祭神を記しておこう。

興成社は山幸彦の後・豊玉姫、飯道社が火の神である軻遇実恵(カグツチ)。遠敷社が山幸彦(彦火火出見 ヒコホホデミ)となっている。

二月堂の高欄に立ち、大和平野を望見。遙か生駒山地の嶺々が鳳が翼を広げるように、北は男山、南は信貴山から八尾辺りまで、暫し時空を越えて悠久の自然と先人たちの残した歴史に、ひとときの夏を楽しむ一日であった。

### 高殿の観世音背ナに大和夏

次回は春日大社周辺の神々を訪ねます。